【巻頭言】

再出発

日本熱測定学会 会長
大阪市立大学 教授 村上幸夫

会員の皆様新年あけましておめでとうございます。本年は皆様にとってより良き年になることをお祈りします。

このところ世界は激動の時期でありますが，昨年は日本でもいろいろなことがありました。世界との繋がりの中でゲリラのペルー日本大使館公邸占拠事件，社会面を賑わした一部高級官僚（公務員）のエリート意識からくる国民を無視したような出来事が続出しました。教育面でも大学院改組を含む色々な大学改革が成されていますが，世の中の目まぐるしい変化に対応するため余りにも物事を早急に決め過ぎるように感じるのは私だけでしょうか。40から50年という長い年月をかけて教育効果が現れると言われています。もう少し長いスタンスで教育を考える必要があると思います。大学における研究教育についても基礎学問の重要性を一方で叫びながら，余りにも新しい分野の学問にのめり込み過ぎていないでしょうか。私の周りには熱力学は完成されたもので，過去の遺物であり，そこから新しいものは何も現れず，早晩研究対象から見捨てられるという見方をする人達がいます。このような見方は非常に危険な考え方であり，見過ごすことができません。日本熱測定学会は熱力学という学問をベースに，手段として熱的測定を用いて種々の自然現象を解明する研究者の集まりであります。会員の皆様はそれぞれの分野で声を大きくして自己主張をしようではありませんか。熱力学の体系は完成しているかも知れませんが，過去の遺物ではありません。

昨年は我が国で初めてIUPAC化学熱力学国際会議（ICCT-96）が大阪・千里で開催されました。約600人弱の方が参加されました。地理的および経済的な悪条件の下で予想だにしなかった多数の参加者であり，また，それぞれのsessionでも活発な討論がおこなわれました。ICCT-96は大成功でした。大成功裡に終ったICCT-96と熱力学をベースにした研究が多くの人達によってなされている事を大いに宣伝しようではありませんか。裏方としてこの国際会議を支えていただいた組織委員会および経済的援助をいただいた諸学協会，企業あるいは個人の方々に主催団体として心からの感謝を述べたいと存じます。特に常に我々の学会に経済的援助を頂いております熱測定振興会には，この場を借りて厚くお礼を述べたいと存じます。近い将来，ICTAC国際会議が再び日本で開催される機運があると聞いています。今から心して準備をしておく必要があります。皆様のご協力をお願い致します。

昨年はICCT-96を成功させたという華やかな年でありましたが，昨年暮れに皆様にもお知らせしましたように学会事務局移転という出来事もありました。長年にわたり事務局業務のお世話をしていただいたリアライズ社には心から感謝の言葉を述べたいと思います。

私は学会の運営を司る幹事会，委員会ひいては学会会員と実際に学会運営業務を携わる事務局との間にはある種の緊張感があり，また相互評価があって良いのでないかと思います。事務局に全面的に頼るのでなく，常に会員が自ら汗を流して，学会運営に当り，事務局はそれを裏方として支える体制が必要だと思います。

現在恒常的な事務局のあるべき姿について議論し，早急に次期事務局を決定しようと努力しています。その間それぞれの部門担当幹事を決めて，皆様にできるだけご迷惑を掛けないような体制を組んでおります。したがって学会事務局業務は平常通り行われていますので，ご質問あるいはご意見をどしどし部門担当幹事までお寄せください。（参照"幹事会のページ"）

以上述べましたように，学会としていろいろな意味で再出発の年であると位置付けられます。これまで学会を支えてこられた諸先輩の業績を無駄にすることなく，学会の発展に尽力したいと現役員は頑張っております。どうか皆様の格段のご理解とご協力をお願い致します。